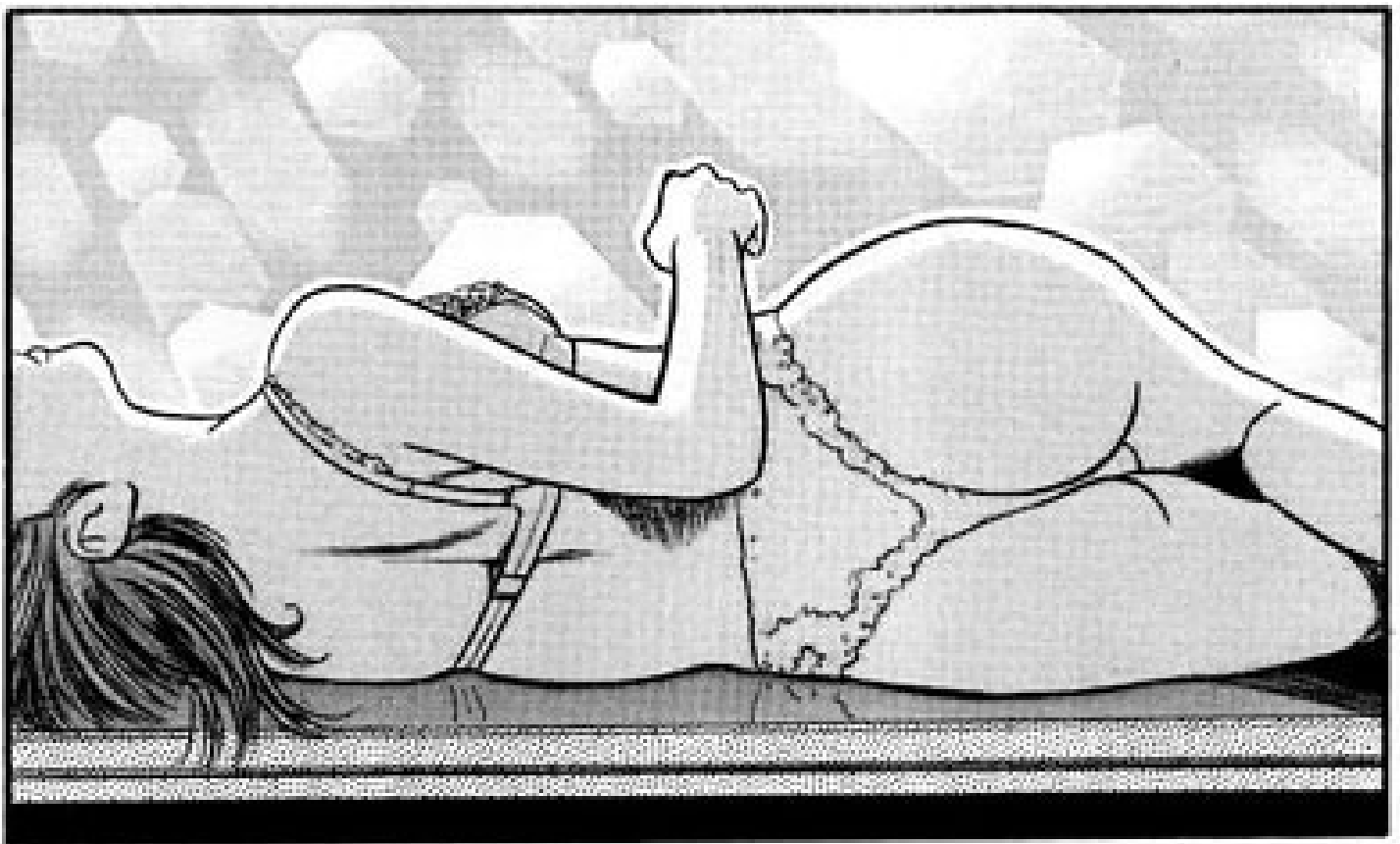
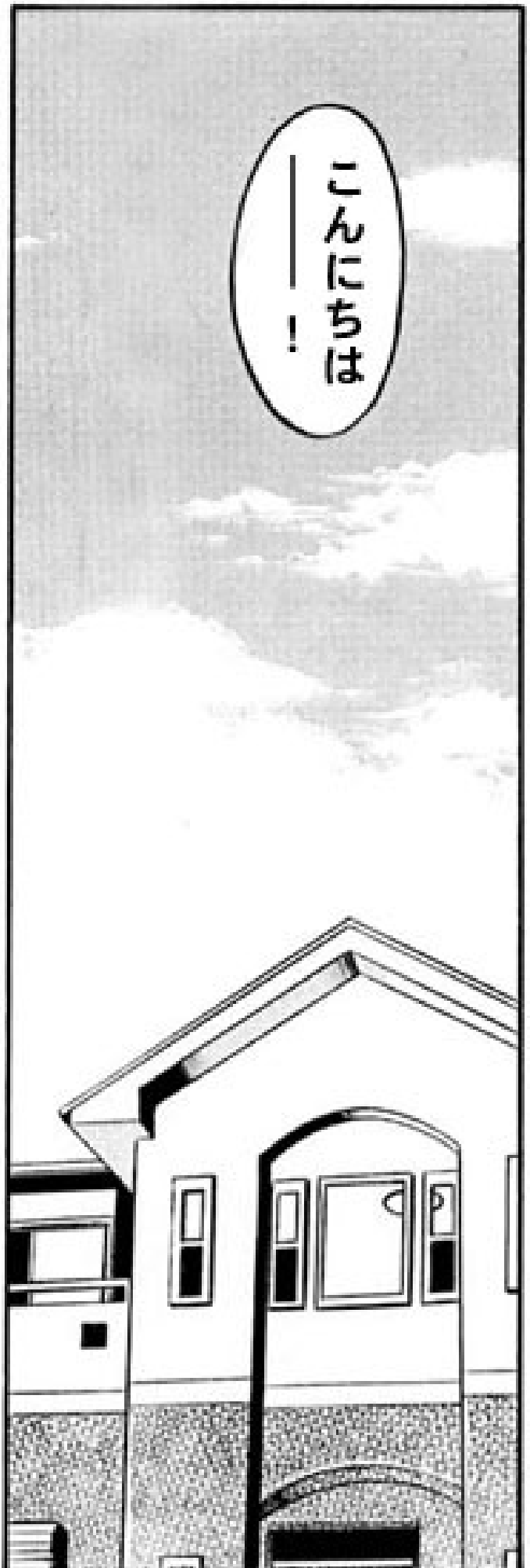


知り合いの人妻 vol. 3

午後のレッスン



烏賊松







俺は今大学一年生で
小学六年生の女の子
麻美ちゃんの家教師を
週三回やっている

童貞だった



せっかくだから

少し休んで
いってね



今日は
携帯へ連絡
すれば
よかったわ

いやあ……



大学生
なんだから

ビールぐらい
飲める
でしょ？

え……ええ
まあ

ちよっと
なら……



あ……





はい
どうも

ど…

ども…



そういうえば

山下クンと
こんな風
にお話するの
初めてだよ

ええ…



この後は
何か予定
あるの？

ひよつとして
彼女と
デートかな？



いや、
彼女なんて
……

オレ
全然モテない
っすから…



ふうん…



もしかして
山下クンって…

童貞？

ぶっ



実を言うと
以前から俺は
この奥さんの事が
好きだった



色々な妄想を
巡らせ

何度オカズに
させてもらったか
数えきれない
くらいだ



それでも
突然こんな
展開になると

頭がパニックで
何をどうすれば
いいのか全く
分からなかった



そして
奥さんに誘われるが
ままに寝室へ
入って行った







あつ…奥さん！

ちょっと待っ



いきなり刺激が強すぎてオレ…



それと…

「奥さん」なんてイヤ！

さゆりって呼んで●



まだイツちゃダメよ

もう少し我慢しなさい



は…は…!!

何もかもが
初体験だった俺は
夢中でさゆりに
むしやぶりついた

大きくて柔らかい
おっぱい
熱くうめく
おま〇

んぐんぐんぐんぐん

いろんな体液で
口をべとべとに
しながら

俺は
目の前の
熟れた女体に
溺れていった...

気が付いた時
さゆりは俺の
上に乗り



いやらしく
腰を動かして
いた

その想像を超えた
あまりの気持ち
良さに俺は

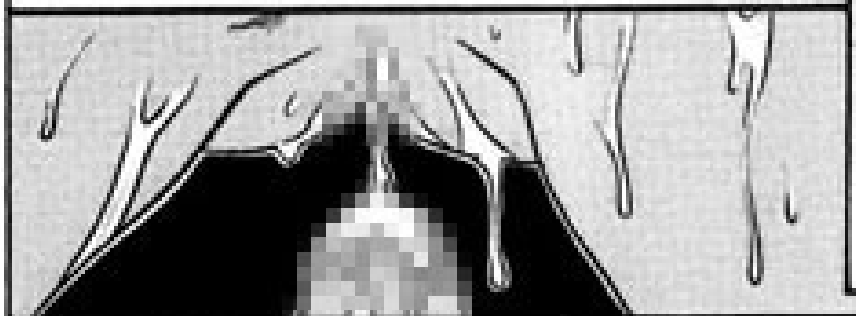


あえなく
さゆりの膣内へ



ぶちまけた…

それからと
いうもの



娘の家庭教師を
する日は
今までより早めに
出向き

家庭教師
さゆりに



性のレッスンを
受けている…